

おかえり、山下清と仲間たち

貼り絵で有名な山下清(1922-1971)は、1934年12歳の時、市内の知的障害児施設八幡学園に預けられました。1940年に突然学園を逃げ出します。放浪しては学園に戻ることをくり返した清を、久保寺光久園長は、必ず「おかえり」と迎えました。全国で開催されてきた山下清と八幡学園の仲間たちの作品展が、彼らの故郷ともいえる市川市で初めて開催されています。

放浪の画家

山下清といえば、1940年から1956年にかけて各地を放浪したことで有名です。その特徴とも言えるのが「げたに浴衣姿」です。作品展会場では背広姿でしたが、暑がりの清は、やはりげたに浴衣姿が一番好きだったようです。(写真提供：松岡一衛)



浴衣姿で放浪する山下清



山下清船上にて(撮影：廣澤孝志)



大文字送り火焼きを待つ(京都賀茂川にて) 右：式場隆三郎 左：山下清

式場隆三郎とともに

日本におけるゴッホ研究の第一人者であった式場隆三郎は、山下清の絵の素晴らしさを展覧会を通して多くの人に紹介した人物です。式場隆三郎は八幡学園の顧問を務めており、清と一緒にヨーロッパ旅行にも行きました。(写真提供：松岡一衛)

山下清とのふれあい

放浪生活を終え、作品展で全国を巡った山下清は、各地でサイン会や学校訪問を行いました。子どもたちに真剣に向き合う清の姿が今回の作品展で紹介されます。(写真提供：松岡一衛)

特別支援学級生たちの描いた絵を一枚一枚丁寧にみる山下清(左) 山梨県甲府市内(1965年)



子ども記者に囲まれて：山下清(左手前) 三重県松阪市(1964年)



子どもたちにサインする山下清 横浜のデパート(1965年)



撮影：廣澤孝志

山下清とともに9年作品展に携わった松岡さんに聞く



松岡一衛さん 「八幡学園」山下清展 事業委員会代表

清さんの「葉っぱの話」が私の中で最も印象深い思い出です。

「木の葉っぱは春夏に生い茂って、秋になると枯れ、冬になると地面に落ちきってしまう。葉のついていない冬の木は、死んでしまっているように見えるが、落ちた葉っぱは木の肥やしになる。そして春には木にまた新しい葉っぱが出て生き返る。人間は一度死んでしまっても終わらなくて、木は何度も生き返る。」と清さんは式場隆三郎先生の訃報を受けた後、私に語ってくれました。

この話の中で清さんは、「木はすごい、自然はすごい」ということを言っていたのでしよう。話を聞いた私は、彼が「葉っぱが肥やしになる」という知識をどこで手に入れたのか不思議に思いました。しかし、ぼうっとすることが好きな清さんは、木を眺めているうちにその知識を得たのだと納得しました。清さんは現実を受け入れ、ものを良く見ている人でした。そして、人をハッとさせるような核心をついたことをよく言いましたね。

清さんの絵の魅力は、類いまれなる美の再現力にあります。根気や努力ではすまされなない才能が清さんにはあったのです。その才能を見いだし開花させたのが八幡学園でした。

企画展 山下清とその仲間たちの作品展

市川市
初開催

回 8月30日(日)まで

※7月20日以外の月曜日、7月21日(火)・31日(金)休館。
平日午前10時～午後7時30分(土・日曜日、祝日は午後6時まで、展示室入室は閉館時間の30分前まで)

場 文学ミュージアム(月曜日休館)

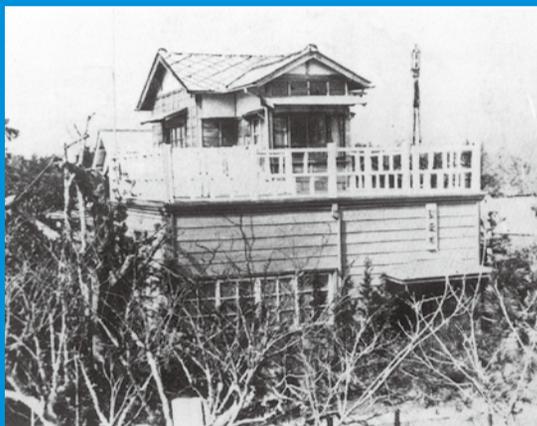
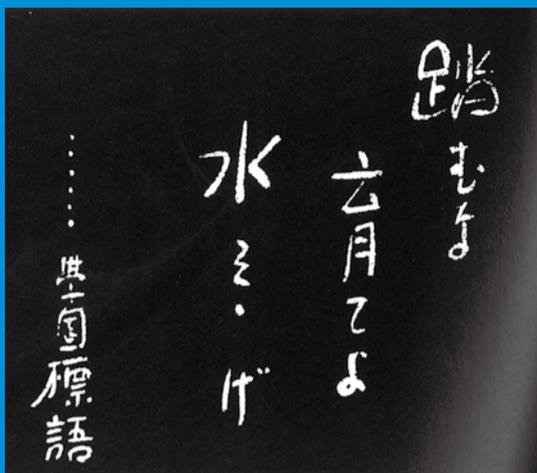
料 一般500円、65歳以上400円、
大学生・高校生250円、中学生以下無料



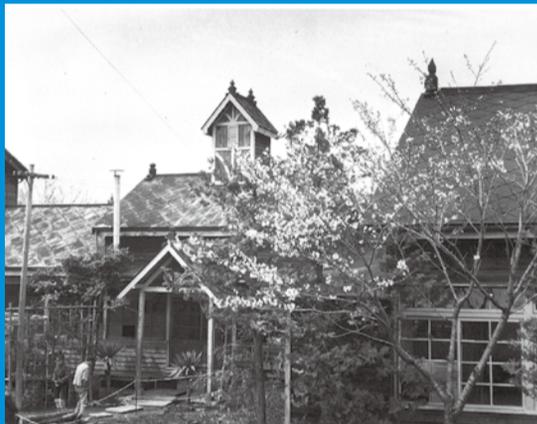
山下清は18歳から34歳までの約15年半の間、放浪しては学園に戻ることを繰り返しました。作品の制作は、旅先での印象を思い出しながら学園で行いました。清の放浪は、一番長い時は3年

にも及びました。清は旅先の風景だけでなく、学園のみんなと出かけた「八幡様のお祭り」「江戸川の花火」や、学園の窓から見た風景を描いた「晩秋」など市川の風景も作品に残しています。

山下清の市川市を描いた作品も展示



▲開園当時の八幡学園 聖愛寮(1929年)



▲聖光寮と聖望寮(1930年)

戸川行男氏(早稲田大学心理学教室助手、後に名誉教授)は、1936年、八幡学園を訪れ園児の心の発達の研究をしました。2年後、氏はその成果を「特異児童作品展」として発表し、日本画壇の重鎮らの絶賛を受けるなど、多くの人びとの関心呼びました。

1928年、全国8番目の知的障害児施設として開園された「八幡学園」では、家庭的な集団生活を基本に、職員は家族として園児に接し、自己発現を求めていきました。学園の「踏むな 育てよ 水

そそげ」の標語のもと育まれた園児たちは、障害があっても美の本能、造形美術的能力を制作活動でいかに発揮したのでした。戸川行男氏により紹介されて以来、学園に保存されてきた園児たちの作品

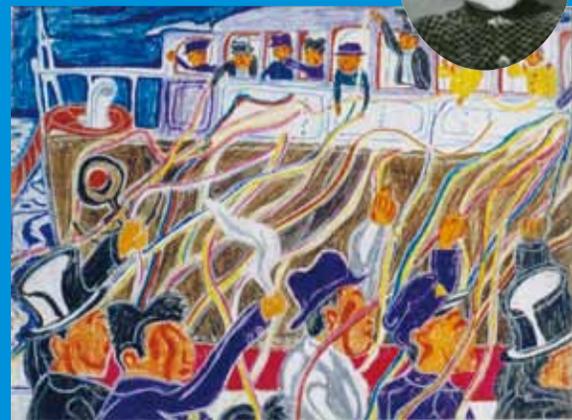
は、2003年からの再公開を経て、今回市川市で展示されることになりました。山下清とその同時期に学園にいた園児たちの作品を、この夏休みにみなさんで鑑賞ください。(写真提供：松岡一衛)

「踏むな 育てよ 水そそげ」——才能を見出し、育む——

山下清とともに学んだ仲間たち 個性豊かな3人の作品を紹介しています。写真提供：松岡一衛

クレパス画の異才
石川 謙二

(1926-1952)
山下清の3年後に入園



▲「おわかれ」クレパス 1939年

原始芸術の風格
沼 祐一

(1925-1943)
山下清の1年後に入園



▲「ひと(赤い顔の少年) 貼り絵 1940年

絵画的天分の持ち主
野田 重博

(1925-1945)
山下清の2年後に入園



▲「潮干狩」クレパス 1938年